

あいサポート運動



～障がいを知り、共に生きる、地域共生社会をめざして～

問い合わせ先 本庁舎人権推進課 ☎0857-20-3143

「障がいのある人が困っていたら声をかけて手助けをしよう」。多くの人がそう考えていると思いますが、「どうしていいのかわからない」というところが正直な気持ちではないでしょうか。そんな気持ちに伝えるため、地域や学校などで、出前の「あいサポーター研修」

共生社会の実現をめざして

この運動を実践していく人々を「あいサポーター（障がい者サポーター）」と呼び、鳥取県では本年4月末で約4万5千人が登録しています。

「あいサポート」は、平成21年11月に、誰もが多様な障がいの特性、障がいのある人が困っていることや必要な配慮などを理解して、ちょっとした手助けや配慮を実践することにより、障がいのある人が暮らしやすい地域共生社会を一緒につくっていく運動として、全国に先駆けて鳥取県から始まりました。

障がいを知り、共に生きる

市民のみならず、地域共生社会の実現をめざしてあいサポート運動に参加してみませんか。

鳥取市でも、障がいのある人への必要な配慮を正しく理解し、適切な窓口対応ができるよう研修を行い、職員一人ひとりの意識の向上に努めています。

平成26年11月3日（月）まで、あいサポート・アートとっとりフェスタ（第14回全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会）が県内の各会場で開催されています。この大会は「障がいを知り、共に生きる」をテーマに、障がいの有無にかかわらず、誰もが参加し、楽しみ、感動を共有することができるアートの祭典です。

サポーター宣言

わたしたちは、多様な障がいの特性を理解し、お互いが分かり合えるように務めます。

わたしたちは、日常生活で障がいのある方が困っている場面を見かけたら、声をかけ、手助けを行います。

わたしたちは、「あいサポート」バッジを身につけ、気軽に声をかけやすい環境をつくりまします。

わたしたちは、「あいサポート」の仲間の輪を広げ、共に生きるよろこびを伝えます。

あいサポートバッジについて（障がい者サポーターシンボルバッジ）

障がいのある人を支える「心」を2つのハートを重ねることで表現しました。後ろの白いハートは、障がいのある人を支える様子を表すと同時に、「SUPPOTER（サポーター）」の「S」を表現しています。

「あいサポート」とは、「愛情」の「愛」、「私」の「I」に共通する「あい」と、支える、応援する意味の「サポート」を組み合わせ、障がいのある人を優しく支え、自分の意思で行動することを意味しています。

【あいサポーター研修の申込・運動についてのお問い合わせ先】
鳥取県社会福祉協議会地域福祉部 〒689-0201 鳥取市伏野 1729-5 鳥取県立福祉人材研修センター
【電話】0857-59-6332 【ファクシミリ】0857-59-6340

シリーズ
じんけん
@
Vol.397

「職場体験」で感じたこと

本市では、全中学校の2年生全員を対象として、市内の事業所のご協力とご理解をいただきながら、職場体験学習を実施しています。これは、地域社会に学び、地域の方々とともに「生きる力」や感謝の心を育み、課題を解決していくこととする意欲や態度、豊かな人間性を育成することを目的として行っているものです。

市役所では、湖東中学校2年の橋本将志さんと水本夕奈さんが6月23日から26日までの4日間、鳥取空港と白兎の道の駅で職場体験をしている中学生を取材し、「とつ

とり市報」のこの1ページを作成しました。

中学生は、初めて知る職場でのルールやマナーに戸惑いながらも、身近な課題に置き替えて理解し、あらためて、家庭や学校での生活の大切さを実感していたようです。

この職場体験が、中学生一人ひとりの日常生活の振り返りとなり、社会人としての第一歩になれば幸いです。

☎ 本庁舎広報室 ☎0857-20-3159



鳥取空港 観光客のための仕事

鳥取空港は、鳥取県東・中部と兵庫県北部の空の玄関です。ここでは、県外のお客様をお出迎えをするため、たくさんの方が働いています。空港で職場体験中の中学生4人は、施設の維持管理や滑走路の点検などをしていました。空港を訪ねてみると、玄関の前庭で2人ずつに分かれて、花の水やりと、草取りをしていました。

一緒に作業をしておられた方に中学生に学んでほしいことを尋ねてみると、「中学生には、基本となる「こんにちは」というあいさつや「ありがとう」などの感謝の言葉を学んでほしい」と言っておられました。中学生に職場体験をやってみたい感想を聞いたところ、「楽だ」と思っていたけど仕事はとても大変だった」と話していました。

4人はそれぞれ別の場所でも協力しながら作業していました。（橋本将志）

暑い中、真剣に草取りをする

道の駅 神話の里 白うさぎ いろんな人に感謝して

白兎の道の駅は、お客様の休憩場所です。利用する人が、買い物や会話をしながら楽しんで、景色を見て安らいだりするところです。取材に行くとき、3人の中学生が、商品の袋詰を体験していました。

体験中の中学生に話を聞いたところ、「小分けの袋をとる作業が慣れていなくて難しい」と言っていました。また、意気込みを聞くとき、「大きな声を出すことを見習って頑張ります」と言っていました。

担当の中塚さんは、いろんな人に感謝して仕事をすることを大切にしています。中学生に学んでほしいことは何ですかと尋ねると、「明るく、元気良く、話をちゃんと聞いて、言われたことを自分なりに考えて理解すること」と言っておられました。

3人は、笑顔で自分の仕事を頑張っていました。（水本夕奈）

緊張しながらも笑顔で商品を渡す

編集後記

市報の作成をして、今まで普通に見ていた市報が、こんなに多くの人に関わって、時間がかかって作られていることが分かりました。市報の作成という貴重な体験ができてよかったです。（橋本将志）

今回、市報の作成をして、1ページ作るだけでもこんなに大変なことが分かりました。今後、市報を読む時は今までとは違う見方ができると思っています。大変だったけど貴重な体験ができてよかったです。（水本夕奈）

鳥取市長から中学生へ

職場体験初日に、深澤市長に面会し、インタビューしました。市長という仕事をしようと思ったきっかけは何ですかと尋ねると、「鳥取市をもっといい町にしていきたい。これから徐々に人口が減り、活気がなくなるが、鳥取市は、活気があるいい町になってほしい」と話しておられました。他にも深澤市長は、「仕事は簡単なことでも必要」と仕事の大切さについても話しておられました。このインタビューで、仕事は多くの人の支えがあつていろいろなことが成り立っていることが改めてわかり、貴重な体験ができてよかったです。